

# 民報 ゆうばり

## 第56回新日本婦人の会夕張支部大会開く

### 夕張は今…三者協議・夕張市の概要ほか



# 第56回新日本婦人の会夕張支部大会 『女性の願いで高福祉社会の実現を！』

12月7日、はまなす会館において第56回新日本婦人の会夕張支部大会が開かれました。久世君公子志部長から、「高齢化の進む夕張で暮らしを良くするために様々な活動をしてきた一年でした。来年もまた、頑張らしましょう」と挨拶がありました。次に、来賓の労連議長筒井勇治さんか

も紹介されました。代議員をはるかに超える参加者で、今年度の活動を振り返り、次年度への課題が示された議案が承認されました。討論の部では、地域の班が高齢者だけでなく生きいき活動ができるのは戦争体験が底力になっていて、報告されました。つづく大型紙芝居では、国政の問題点

を再確認し、「選挙では自分たちの願いが届く議員や政党を選ばなければ」とそれぞれ胸に届く内容でした。

道本部の工藤会長や市長のメッセージ



最後にくまがい桂子市議は、「夕張の今」と題して、市が開催した「ふれあいトーク」の資料を使ってスライドを上映しながら説明しました。(以下概要)

最後にくまがい桂子市議は、「夕張の今」と題して、市が開催した「ふれあいトーク」の資料を使ってスライドを上映しながら説明しました。(以下概要)

#### 1、三者協議結果概要

- H26年度予算は、財政再生計画の実質5年目(財政再建計画からは通算実質8年目)
- 『国、北海道、及び夕張市の三者協議』に課題登録した70項目のうち、29項目を予算に反映。
- 職員2名の追加採用と、期末勤勉手当の支給額算定見直し
- 市営再編住宅Ⅱ期

#### 2、夕張市の現在の概況

- コンパクトシティ構想
- 初期救急医療の確保
- 公園施設の補修
- 橋の長寿命化(点検・補修・架替)
- 耐震診断
- し尿処理場閉鎖にともなう維持管理
- 炭鉱生活館解体
- 旧富野塵芥焼却場解体
- 行政執行体制の確保
- CBM開発の実現
- ズリ採取など地域エネルギー有効活用
- 夕張メモリアルブランド化
- 公共施設老朽化対策
- 地域住民の集会施設への光熱費補助

#### 3、子ども子育ての現状と課題

- 放課後や休日の居場所や公園がない
- 長距離通学による様々な制限
- 医療体制の不安
- 保育体制の不整備
- 子育て世代で施設やサービスの充実を求める声が多く、人口流出の要因の一つ

#### 4、交通政策

- ダイヤンド交通(電話予約運行の定員10人以下の交通機関)の導入に向けた意向調査を終え、実証試験に向け協議中
- 市立診療所は①整形外科の充実②病床19床老健40床を維持、③初期救急医療の中心④市内医療機関との連携等の条件を満たす医療施設をH27年度に公募し、H29～39年度までに移転する

#### 5、医療政策

- ★最後にくまがい市議は「27年度以降、都市拠点(清水沢)機能等、今後のまちづくり案を提示する方針。全て国の許可が必要。これまで約80億円の市職員の人件費を削減。年金にも大きく影響し、「家族に責任が果たせない」と33人が中途退職した。このまま、財政再生計画を続けるのかが問われている」と締めくくりました。

# 夕張の子どもの未来を考えよう！

11月24日、ゆうばり共生型ファームの視聴覚室において「発達障がいへの理解と支援研修会」が開かれました。主催者は、一般社団法人らぶらすです。講師は、元北海道児童相談所児童福祉司・児童心理士の林達さん。支援者、父母、一般の人たち30名が参加して学習しました。発達心理など専門的で難しい内容でしたが、育ちにくさ、育てづらさを持つ子どもたちにとって接していけばよいのかと、具体例を示しながらの講演でした。

## 発達障がいの理解と支援研修会



## くずさんの夕張歴史散歩⑱

### 夕張・飯場と坑夫 ③

ちよつと道草を

久しぶりに末広墓地を歩き、国太郎の墓を探してみました。たしか、友子の頭・飯場の親方だけあって周囲を圧する大きなもので、正面に松尾国太郎之墓と刻していた、と記憶していました。しかしそこに見たのは、黒御影の真新しいお墓でした。なんと改修されていたのです。正面は「松尾家累代之墓」とあり、裏面に 明治四十一年八月 建之 松尾ハル 平成二十二年八月 改葬 松尾與吉 松尾定治 とありました。

その墓誌には、松尾国太郎 明治四十一年三月二十八日 四十七才とありました。今の時代から見ると随分早死にみえます。働き盛りだったでしょう。

またそこには建立したハルの名がなく、松尾與吉は改修をした翌平成二十三年七月、九十二才で亡くなっています。松尾定治は現在何歳か分かりませんが、国太郎の子孫として百余年の歴史をみた思いです。お墓は立派になりましたが、残念なことに、そこには明治の風が吹いていませんでした。

明治の風といえば、多くの友子の墓が倒れ壊れ消えています。「わが夕張」(働くものの歴史を記録する会・編)には、友子坑夫の墓の調査が記録されています。文字通り地を這うような調査の結果、百十一基の墓石を発見し、墓名簿を作っています。それと照らし合わせても、随分と消えています。今回だけでも、草木の中に倒れていた墓がいくつかに付きました。急いで保存の手を打たないと歴史的価値をどんどん失ってしまいます。焦慮に駆られます。



倒れている友子の墓↑



松尾国太郎の墓↑

## くまがい桂子の政治日記



日本共産党 夕張市議

## くまがい桂子

職業教育は小学1年生から始まる

インターネットのフェイスブックで、「デンマークが超福祉大国になったこれだけの理由」ケンジ・ステファン・スズキ 合同出版が紹介されていました。

まず、「教育、職業および労働市場の知識」という科目が義務教育期間の必修科目です。

1年生〜3年生の段階は、日常生活やクラスでの体験を題材にしての討論。たとえば選挙をテーマに多数決の意味、自分の意思を伝え、相手の意見を聞き、合意を見出すことの意義を学ぶ。両親の仕事、男子と女子の役割、社会とのつながりも。

4年生〜7年生の段階では、地元での進学・就職の可能性、起業すること、若者が働く環境、権利、将来の計画などのテーマで討論。メディアからの情報収集のしかた、メディアリテラシー(メディアを批判的に見る教育と読み解く能力)教育。

8年生〜10年生までの段階は、外国での就学と職業の可能性、自己の教育計画とそれに向けた行動計画の作成、働くことの価値と心構え、失業と仕事が無くなった時の対処法など。具体的な技術としては、コンピュータプログラム、データベース、インフォメーションシステムの使い方、履歴書・求職書の書き方、起業と経営の実際。

また、政治リテラシー(政治を批判的に見る教育と読み解く能力)教育もしっかりしているので、国民(主権者)としての意識も高く、政治家の人気は5位、平均投票率は90%。

こうやって、高福祉の国が作られてきたのかと、目が覚める思いでした。

さて、70%の国民がメディアに誘導されるという日本、今後の教育改革の方向が見えてきましたね。